

2017(平成 29)年度
大学院学生募集要項
(一般選抜、社会人特別選抜)

経営学研究科経営学専攻
博士前期課程 (修士課程)
博士後期課程

松 山 大 学 大 学 院

〒790-8578 松山市文京町4番地2
TEL: 089-925-7111 (代表)
URL: <http://www.matsuyama-u.ac.jp/>

目次

松山大学大学院経営学研究科への ^{いざな} 誘い	2
1. 募集人員・選抜の種類	3
2. 出願資格	3
3. 試験に係る日程	4
4. 出願手続	4
5. 選抜方法	6
6. 試験場所	7
7. 受験上の注意事項	7
8. 合格発表	7
9. 入学手続	7
10. 納付金	8
11. 私費外国人留学生の学費減免制度について	8
12. 私費外国人留学生への奨学金制度について	8
13. 博士前期課程(修士課程)開講予定授業科目および担当者	9
14. 博士後期課程開講予定授業科目および担当者	10
文京キャンパスマップ	

手続書類(本学所定の用紙)

1. 入学願書
2. 身上書
3. 写真票、受験票
4. 研究歴・研究課題調書(全2枚) <一般選抜用>
5. 志望理由書<社会人特別選抜入試>
6. 研究計画書(全3枚) <社会人特別選抜入試>
7. 身元保証書〔日本国籍を有しない者のみ〕
8. チェックシート
9. 検定料振込依頼票(記入例含む)
10. 出願用封筒

松山大学大学院経営学研究科への^{いざな}誘い

多様な人々が学ぶ大学院

松山大学大学院 経営学研究科長 中村 雅人

今日、世界はフラット化し、日々新たなビジネスチャンスが生まれていますが、同時に競争も激化しています。急速なグローバル化により時々刻々と変化する社会の中で必要とされているのは、国際的に通用する高度な専門知識とスキルを備えた人材です。このような人材が、これからの社会を牽引していくものと考えられます。今まさに、「高度な人材養成機能」をもつ大学院に大きな期待が寄せられています。

経営学研究科では、社会のニーズにあわせて経営学、商学、管理工学、会計学、産業社会、経営・文化の各学問領域にすぐれた研究陣を配して、ここに学ぶ院生の皆さんの教育・研究指導に力を注いでいます。これまでに多くの院生の方が教育・研究指導を受け、また自らが研究に従事して高度な知識やスキルを身に付けて社会に巣立って行きました。そのような方々は今日、研究者、教員、税理士、コンサルタント、その他プロフェッショナルとして、さまざまな方面で活躍しています。

ところで企業や組織において実際に仕事をしていく上で、常に経営やマーケティング、情報、会計、経営文化などについての知識やスキルが求められます。私たちは、これらの知識やスキルを習得して、自ら新しい境地やライフスタイルを切り開かんと自己の研鑽に努める社会人の方たちにも学びの場を提供しています。また高等学校教諭一種(商業)免許状所持者の方は、所定の科目を修得することにより、さらに上位の専修免許状を取得することが可能です。本研究科では、このように多様化する社会のニーズに応えるために幅広いカリキュラムを用意し、社会人の方が学べるように昼夜開講制を導入しています。また科目等履修生として大学院の授業に参加することもできます。

経営学研究科では学部からの進学者、ビジネスの第一線で活躍し、又活躍された社会人の方など、実にさまざまな人々が集い学んでいます。

自ら未来を切り開こうとするチャレンジ精神旺盛な皆さん、ぜひ経営学研究科の門戸をたたいて下さい。

2017 (平成 29)年度松山大学大学院経営学研究科 学生募集要項

1. 募集人員・選抜の種類

研究科・専攻	課程	募集人員	選抜の種類
経営学研究科 経営学専攻	博士前期課程 (修士課程)	10名	一般選抜 社会人特別選抜<修士論文コース・課題研究コース>
	博士後期課程	2名	一般選抜 社会人特別選抜

2. 出願資格

■博士前期課程(修士課程)・一般選抜

次の(1)～(5)のうち、いずれかの資格を有する者。

- (1)日本国において、大学を卒業した者および2017(平成29)年3月卒業見込みの者。または、日本国籍を有する者で外国の大学を卒業した者および2017(平成29)年3月までに卒業見込みの者。またはこれに準ずる者。
- (2)大学評価・学位授与機構により学士の学位を授与された者および2017(平成29)年3月までに授与される見込みの者。
- (3)次の①および②のすべての条件を満たす者。
 - ①日本国籍を有しない者であって外国で16ヵ年課程の学校教育を修了した者。
 - ②独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本語試験」の「日本語」が **250点**(2009年度以前の試験は219点)以上の者。
ただし、日本国外からの出願で、「日本語試験」が実施されていない国・都市からの応募についてのみ、財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」N1(2009年度以前の試験は1級)を取得した者。
- (4)文部科学大臣の指定した者。
- (5)その他大学を卒業したと同等以上の学力があると本大学院において認められた者。

■博士前期課程(修士課程)・社会人特別選抜<修士論文コース・課題研究コース>

次の(1)～(5)のいずれかの資格を有する者で、入学時まで3年以上の社会人としての経験を有する者(例えば、官公庁、企業、教育・研究機関などにおいて3年以上の実務経験のある者。※)

- (1)日本国において、大学を卒業した者。または、日本国籍を有する者で外国の大学を卒業した者。
 - (2)大学評価・学位授与機構により学士の学位を授与された者。
 - (3)次の①および②のすべての条件を満たす者。
 - ①日本国籍を有しない者であって外国で16ヵ年の課程の学校教育を修了した者またはこれに準ずる者。
 - ②独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本語試験」の「日本語」が **250点**(2009年度以前の試験は219点)以上の者。ただし、日本国外からの出願で、「日本語試験」が実施されていない国・都市からの応募についてのみ、財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」N1(2009年度以前の試験は1級)を取得した者。
 - (4)文部科学大臣の指定した者。
 - (5)本大学院において、大学を卒業したと同等以上の学力があると認められた者。
- ※「3年以上の社会人としての経験」は、上記(1)(2)(4)においては大学卒業後もしくは文部科学大臣が指定した、各種大学卒業後のものとし、上記(3)においては当該課程修了後のものとする。

■博士後期課程 一般選抜

次の(1)～(2)のうち、いずれかの資格を有する者。

- (1)日本国において、修士の学位を有する者および2017(平成29)年3月修士課程修了見込みの者。または、日本国籍を有する者で外国の大学の修士の学位を有する者および2017(平成29)年3月までに修士課程修了見込みの者。
- (2)次の①および②のすべての条件を満たす者。
 - ①日本国籍を有しない者であって外国で修士の学位を有する者。またはこれに準ずる者。

②独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」が **250点** (2009年度以前の試験は219点)以上の者。ただし、日本国外からの出願で、「日本留学試験」が実施されていない国・都市からの応募についてのみ、財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」N1 (2009年度以前の試験は1級)を取得した者。

■博士後期課程 社会人特別選抜

専門的研究に明確な目的と意欲を持ち、研究者・教育者・高度専門職業人として社会の期待に応えようとする者または自己の能力を一層向上させようとする者で、次の(1)～(3)のいずれかに該当する者。

- (1)修士の学位または専門職学位を2017(平成29)年3月取得見込みの者で、教育・研究機関、企業、非営利団体、公認会計士事務所、税理士事務所、不動産鑑定士事務所、官公庁等に2年以上在職し、入学後も勤務する者。
- (2)修士の学位または専門職学位を有する者で、教育・研究機関、企業、非営利団体、公認会計士事務所、税理士事務所、不動産鑑定士事務所、官公庁等に2年以上在職し、入学後も勤務する者。
- (3)修士の学位または専門職学位を有する者で、生涯学習者として経営学、経営史、商学、管理工学、会計学、産業社会領域のいずれかを専攻して、自己の学問領域をさらに開拓しようとする者。

3.試験に係る日程

課程	入試期	出願期間※	試験日	合格発表日時
博士前期課程 (修士課程)	第Ⅰ期	2016年9月1日(木)～9月8日(木)	9月25日(日)	10月6日(木) 10時
	第Ⅱ期	2017年2月2日(木)～2月9日(木)	2月26日(日)	3月2日(木) 10時
博士後期課程	第Ⅰ期	2016年9月1日(木)～9月8日(木)	9月25日(日)	10月6日(木) 10時
	第Ⅱ期	2017年2月2日(木)～2月9日(木)	2月26日(日)	3月2日(木) 10時

※出願期間中の窓口受付時間は9時から16時までとする。ただし、土曜・日曜・祝日は受付を行わない。

郵送による場合は簡易書留郵便とし、出願締切日16時必着とする。

4. 出願手続

- (1) 検定料 30,000円

*所定の用紙を使用し、出願締切日の15時までに、銀行から電信扱いで納入すること。

*一旦納入した検定料は、理由の如何を問わず返還しない。

- (2) 諸注意

*身体に障がいがあり、受験に際し特別の配慮を必要とする志願者は、出願開始日の1ヶ月前までに申し出ること。

*日本国外から日本国籍を有しない者が出願する場合は、出願期間にかかわらず事前に出願書類の提出を求める場合があるので、早めに問い合わせをすること。

- (3) 出願書類等

*下表の書類を別添の封筒で持参・あるいは郵送すること。

*各欄の○印は必須、△印は必要に応じて用意すること。

提出書類	摘要	修士・ 一般	修士・ 社会人	博士・ 一般	博士・ 社会人
イ 入学願書	本学所定の用紙 別掲の「授業担当者表」を参照すること。	○	○	○	○
ロ 身上書	本学所定の用紙	○	○	○	○
ハ 写真票、受験票	本学所定の用紙	○	○	○	○
ニ 最終出身大学の卒業 (見込)証明書 ※1	最終出身大学が中国の場合は、その卒業証書のコピー および「公証書」の原本を提出すること。	○	○		
ホ 最終出身大学の 成績証明書 ※1	厳封のこと。	○	○	○	○
ヘ 研究歴・研究課題調書 <一般選抜用>	本学所定の用紙	○		○	
ト 志望理由書 <社会人特別選抜>	本学所定の用紙		○		○

提出書類	摘 要	修士・ 一般	修士・ 社会人	博士・ 一般	博士・ 社会人
チ 研究計画書 ＜社会人特別選抜＞	本学所定の用紙		○		○
リ 受験承諾書	有職者で勤務を継続しながら就学しようとするものは、職場上司の「受験承諾書」を提出することが望ましい。	△	△	△	△
ヌ 修士の学位取得(見込)証明書	修士学位の取得が中国の場合は、その学位取得証明書および「公証書」の原本を提出すること。			○	○
ル 修士課程の成績証明書	厳封のこと。			○	○
ヲ 修士論文の写し1部 ※2	・修士論文の参考文献リストを別添すること。 ・修士課程修了見込みの者は修士論文の概要(A4用紙横書き 3,000字程度)および修士論文の作成過程で使っている参考文献リストを提出すること。			○	○
ワ 修士論文の要旨4部	・一般選抜：400字詰原稿用紙20枚程度 ・社会人特別選抜：A4用紙横書き、2,000字程度 ・修了見込み者は提出不要。			○	○
カ 検定料振込控(写)	本人控えを複写して提出すること。	○	○	○	○
ヨ	日本国籍を有しない者については、以下の①～③の書類も用意すること。				
①身元保証書	本学所定の用紙 署名欄には必ず押印し、その印鑑の印鑑登録証明書を添付すること。	○	○	○	○
②身元保証人の住民税または所得税の納税証明書、源泉徴収票、確定申告書(写)のいずれかで、年間の所得および納税額を証するもの。		○	○	○	○
③身元保証人の身分を証明できるもの(運転免許証等)のコピーを提出すること。 なお、身元保証人が日本国籍を有しない場合は、住民票又は住民票記載事項証明書を提出すること。 *保証人は、日本国籍を有する者、または日本に永住する外国人およびそれぞれに準ずる者(出入国管理および難民認定法別表第二に定める)に限る。		○	○	○	○
タ	日本国籍を有しない者で、かつ、「日本留学試験」または「日本語能力試験」が出願要件の者は、次の書類も用意すること。				
	独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」の成績通知書、または財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」の合否結果通知書(日本語能力認定書も添付すること)。いずれの場合も原本を提出すること。 *原則として提出された書類は返却しないが、個人情報保護法に基づき、松山大学で厳重に管理する。ただし、「日本留学試験」の成績通知書および「日本語能力試験」の合否結果通知書並びに日本語能力認定書は返却する。	○	○	○	
レ チェックシート	所定の用紙を使用し、出願前に適切にチェックすること。	○	○	○	○

※1 大学評価・学位授与機構から学位を授与された者は上記ニ・ホに代えて、学位授与証明書(大学評価・学位授与機構が発行したもの)、若しくは短期大学長または高等専門学校長等の発行する学位授与申請(予定)証明書。

※2 修士論文以外に研究業績がある者は、主要業績を3点まで提出することができる。ただし、提出した研究業績は研究計画書で記述している内容と関連していること。

(4) 出願書類の提出先および問い合わせ先

〒790-8578 松山市文京町4番地2

松山大学教務部教務課 大学院経営学研究科担当

電話 089-925-7111(内線 305)

Mail: mu-kyomu@matsuyama-u.jp

5. 選抜方法（Ⅰ期・Ⅱ期共通）

■博士前期課程（修士課程）・一般選抜

選考は以下の試験結果および出願書類を総合判定して行う。

試験科目		試験時間
筆記試験 専門科目	経営学(2問)、商学(2問)、管理工学(2問)、会計学(2問)、産業社会(2問)の5科目10問のうちから3問を選択。ただし専攻する学科目(第一希望に挙げた演習担当者の属している学科目)を1問以上必答とすること。	9:00～10:40 (100分)
筆記試験 外国語	英語	11:15～12:55 (100分)
面接	出願書類等にもとづいて行う。	13:30～

<備考>

外国語(英語)については、和訳・読解の問題が出題される。なお、辞書の使用を認める。(ただし、電子辞書の使用は認めない。)

■博士前期課程（修士課程）・社会人特別選抜

選考は提出された出願書類および口述試験を総合して判定する。

試験科目		試験時間
※口述試験		13:30～

<備考> ※志望理由書、研究計画書等について行う。1人30分程度。

■博士後期課程・一般選抜

選考は以下の試験結果、出願書類を総合して行う。

試験科目		試験時間
筆記試験	英語	9:00～11:00 (120分)
口述試験		13:30～

<備考>

イ 外国語(英語)は、和訳のみ行い、辞書の使用を認める。(ただし、電子辞書の使用は認めない。)

ロ 口述試験は修士論文と専門知識に関する試問ならびに志望理由書、研究計画書等について行う。1人30分程度。

■博士後期課程・社会人特別選抜

選考は以下の小論文、口述試験を中心にして外国語(英語)、出願書類などを総合して行う。

試験科目		試験時間
筆記試験 外国語	英語	9:00～10:10 (70分)
小論文	商学、管理工学、会計学、産業社会の4分野から専攻する学科目(第一希望に挙げた演習担当者の属している学科目)を選択すること。	11:15～12:25 (70分)
口述試験		13:30～

<備考>

イ 外国語(英語)は、和訳のみ行い、辞書の使用を認める。(ただし、電子辞書の使用は認めない。)

ロ 口述試験は修士論文と専門知識に関する試問ならびに志望理由書、研究計画書等について行う。1人30分程度。

6. 試験場所

松 山 大 学 松山市文京町4番地2 (試験教室は、出願以降に連絡する。)

7. 受験上の注意事項

- (1)各試験において、試験開始時刻の10分前には指定の教室に集合すること。
- (2)受験に際しては、必ず受験票を持参すること。
- (3)大学内へ自動車で乗り入れることはできない。

8. 合格発表

第Ⅰ期 2016(平成28)年10月6日(木) 10時

第Ⅱ期 2017(平成29)年3月2日(木) 10時

合格者については、学内2号館前掲示板(大学院)に掲示するとともに、合格者には合格通知書を送付する。

9. 入学手続

(1)入学手続期間

第Ⅰ期合格者 2016(平成28)年10月6日(木)～2016(平成28)年10月14日(金) 16時 [必着]

第Ⅱ期合格者 2017(平成29)年3月2日(木)～2017(平成29)年3月10日(金) 16時 [必着]

(2)学費の納付(金額については「10. 納付金」を参照)

第Ⅰ期合格者:通知する金額の入学金を納入すること。

在学料については、のち(3月上旬)に通知する前期分金額を2017(平成29)年3月10日(金)15時までに、所定の用紙で銀行から電信扱いで納入すること

第Ⅱ期合格者:通知する金額の入学金および前期分在学料を2017(平成29)年3月10日(金)15時までに所定の用紙で銀行から電信扱いで納入すること。

※ 一旦納入した入学金は、理由の如何を問わず返還しない。在学料は、2017(平成29)年3月31日(金)(消印有効)までに入学辞退を届け出た場合は返還する。なお、入学辞退届けを直接持参する場合は、2017(平成29)年3月31日(金)まで(土・日・祝日を除く8時30分～17時)に教務部教務課まで提出すること。

(3)提出書類 ※提出書類については合格通知の際、別途案内する。

住民票又は住民票記載事項証明書<原本>	1通(2017(平成29)年2月以降の証明日付があるもの)
カラー写真	2葉(1か月以内に撮影したもの サイズ2.5cm×2.5cm)
誓約書・同意書、保証書	本学所定の用紙
卒業証明書	【博士前期課程(修士課程)・一般選抜】志願者のうち、出願時「見込」の者のみ 1通 (2017(平成29)年3月22日(水)までに提出すること。)
学位取得証明書	【博士後期課程】志願者のうち、出願時「見込」の者のみ 1通 (2017(平成29)年3月22日(水)までに提出すること。)

10. 納付金

2017(平成 29)年度の納付金額

	学外出身者	本学学部・大学院出身者
入 学 金	126,000 円	72,000 円
在学科(年額)	570,000 円 (納付は、前期 285,000 円、後期 285,000 円の分納とする。)	

* 本学大学院の修士課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学する者に対しては、入学金全額を免除の上、在学科を修士課程入学時の金額とする。

* 委託徴収分(年額)

温山会終身会費 10,000 円(本学出身者を除く)

温山会とは、松山大学各学部、大学院、短期大学と、その前身である松山高等商業学校、松山経済専門学校、松山商科大学の卒業生を正会員とする本学の同窓会である。その会費を2年間にわたり、委託徴収する。

11. 私費外国人留学生（在留資格が「留学」）の学費減免制度について

松山大学私費外国人留学生学費減免規程に基づいて、入学した年度については、「半額減免」が適用される場合がある。

また、翌年度からは、前年度の成績に基づいて、「全額減免」、「半額減免」、「30%減免」が適用される場合がある。ただし、必ずしも対象者全員に適応されるとは限らない。

12. 私費外国人留学生への奨学金制度について

松山大学私費外国人留学生奨学金(月額 3 万円)、関奉仕財団奨学金、松山済美会留学生奨学金、ほか各種奨学金がある。

13. 長期履修学生制度について

経営学研究科では、修士課程で2年間の在学科で3~4年間、博士後期課程で3年間の在学科で4~6年間履修できる長期履修学生制度を導入している。詳細については教務部教務課まで問い合わせること。

2017(平成29)年度 大学院経営学研究科 経営学専攻 授業科目担当者(予定)

博士前期課程(修士課程)

別表1

学科目	授業科目	単位	開講期	担 当 者		
経営学	経営管理論	特講	4 通年	准教授	博士(経営学)神戸大学	麓 仁美
	経営戦略論	特講	4 通年	准教授		荻谷 寿夫
	企業論	特講	4 通年			
	国際経営論	特講	4 通年			
	国際経営論	演習	8 通年			
	ソーシャルビジネス論	特講	4 通年	教授(兼任)	博士(国際公共政策)大阪大学	上杉 志朗
	ソーシャルビジネス論	演習	8 通年			
商学	人的資源管理論	特講	4 通年	准教授	博士(経営学)神戸大学	柴田 好則
	経営組織論	特講	4 通年	准教授	博士(経営学)神戸大学	吉野 直人
	広告論	特講	4 通年			
	広告論	演習	8 通年			
	貿易論	特講	4 通年	教授		上羽 博人*
	貿易論	演習	8 通年			
	保険論	特講	2 前期	教授		中村 雅人
リスクマネジメント論	特講	2 後期				
経営学	マーケティング論	特講	2 前期			
	ブランドマネジメント論	特講	2 後期	教授		田村 公一*
	マーケティング論	演習	8 通年			
	マーケティング戦略論	特講	2 前期	准教授		河内 俊樹
	インダストリアル・マーケティング論	特講	2 後期			
	経営科学	特講	2 前期	教授	博士(工学)香川大学	松田 圭司
	管理統計	特講	2 後期			
管理工学	数理解析	特講	4 後期	教授	博士(理学)筑波大学	檀 裕也
	情報処理論	特講	2 前期			
	情報ネットワーク論	特講	2 後期			
	情報処理論	演習	8 通年			
	情報システム論	特講	4 通年	教授	博士(情報学)総合研究大学院大学	成瀬 一明*
	情報システム論	演習	8 通年			
	情報資源管理論	特講	4 通年			
	経営データ解析論	特講	4 通年	教授		東淵 則之*
	情報資源管理論	演習	8 通年			
	経営情報論	特講	4 通年	教授(兼任)	博士(国際公共政策)大阪大学	上杉 志朗
経営情報論	演習	8 通年				
会計学	統計的品質管理論	特講	4 通年	准教授	博士(工学)関西大学	古山 滋人
	財務会計論	特講	4 後期	准教授	博士(経営学)神戸大学	中溝 晃介
	財務諸表論	特講	4 通年			
	財務諸表論	演習	8 通年			
	管理会計論	特講	4 通年	教授		森本 三義
	原価計算論	特講	4 通年			
	ライフサイクル・コスト論	特講	4 通年			
	原価計算論	演習	8 通年			
	資金会計論	特講	4 通年	教授	博士(商学)一橋大学	溝上 達也*
	資金会計論	演習	8 通年			
産業社会	税務会計論	特講	4 通年	准教授	博士(商学)一橋大学	松下 真也
	人材育成システム論	特講	4 通年			
	人材育成システム論	演習	8 通年			
	キャリアカウンセリングⅠ	特講	2 前期			
	キャリアカウンセリングⅡ	特講	2 後期			
	生涯学習論	特講	4 通年	教授		川口 仁志*
	生涯学習論	演習	8 通年			
経営・文化	能力開発論	特講	4 通年	教授		作田 良三*
	能力開発論	演習	8 通年			
経営・文化	職場の健康管理	特講	4 通年	教授		酒井 達郎

備考

1. 学生は入学後所定の期日までに指導教授を定め、研究科委員会の承認を得るものとする。
2. 指導教授の担当する演習は必修とし、2年間にわたって履修するものとする。
3. 博士前期課程(修士課程)の修了要件は、大学院に2か年以上在学し、特講24単位以上、演習8単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文もしくは課題研究の審査及び最終試験に合格することとする。
4. 上記に合格した者には、修士(経営学)の学位が与えられる。
5. 上掲の表は、予定であり事情により変更することがある。空欄の箇所については開講する可能性もあるので、詳細については問い合わせること。
6. *は演習担当者を示す。

2017(平成29)年度 大学院経営学研究科 経営学専攻 授業科目担当者(予定)

博士後期課程

別表2

学 科 目	授業科目		単 位	担 当 者	
経 営 学	国際経営論	特殊演習	12		
	ソーシャルビジネス論	特殊演習	12		
商 学	広告論	特殊演習	12		
	貿易論	特殊演習	12	教授	上羽 博人
	マーケティング論	特殊演習	12	教授	田村 公一
管 理 工 学	情報処理論	特殊演習	12		
	情報システム論	特殊演習	12	教授 博士(情報学)総合研究大学院大学	成瀬 一明
	情報資源管理論	特殊演習	12	教授	東淵 則之
	経営情報論	特殊演習	12		
会 計 学	財務会計論	特殊演習	12		
	財務諸表論	特殊演習	12		
	管理会計論	特殊演習	12		
	原価計算論	特殊演習	12		
	資金会計論	特殊演習	12	教授 博士(商学)一橋大学	溝上 達也
産 業 社 会	人材育成システム論	特殊演習	12		
	キャリアカウンセリング	特殊演習	12		
	生涯学習論	特殊演習	12	教授	川口 仁志
	能力開発論	特殊演習	12	教授	作田 良三

備 考

1. 学生は入学後所定の期日までに指導教授を定め、研究科委員会の承認を得るものとする。
2. 指導教授の担当する特殊演習は必修とし、3年間にわたって履修するものとする。
3. 博士後期課程の修了要件は、大学院に5か年(修士課程を修了した者にあつては、当該課程における2か年の在学期間を含む)以上在学し、修士課程において修得した単位のほかに特殊演習12単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格することとする。
4. 上記に合格した者には、博士(経営学)の学位が与えられる。
5. 上掲の表は、予定であり事情により変更することがある。空欄の箇所については開講する可能性もあるので、詳細については問い合わせること。